

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告（全体会議資料抜粋）

## 《令和2年度の当初目標》

10年間をふりかえりながら、「山部会の出発点の共有」を見直すとともに、これまでの4つのテーマについて、引き続き、情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、融合できる内容を精査し、必要に応じてテーマに絞り込んだ特別WGの開催を視野に議論を重ねる。

### <テーマ>

①流域圏担い手づくり事例集

### <解決手法>

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「**流域圏担い手づくり事例集Ⅲ**」を刊行する。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ**流域全体の担い手を発掘する活動**とする。
- ・これまでの事例集づくりで得られた情報と、取材先団体のカテゴリーや団体間関係を整理し、現段階での事例集づくりの成果をまとめ、**流域圏懇談会10年誌に掲載**する。
- ・事例集の活用方法と、**今後の事例集づくりの方向性について検討**する。

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告

## <テーマ>

### ②山村ミーティング

## <解決手法>

- ・矢作川流域林業担い手100人ヒアリングの結果をふまえ、林業技術者と市民の協働による「**流域の森づくりガイドライン**」を策定する（③森づくりガイドラインとの協働を想定する）。
- ・ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見を伺うなど、**懇談会との連携を強化**する（担い手の創出）。
- ・矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、さらに検討を行っていく。

### ③森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「**森づくりガイドライン**」づくりに取り組む。（②山村ミーティングとの協働を想定する）。
- ・**森林経営管理法、森林環境譲与税**などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、**流域圏全体として調和のとれた森づくり**を目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、**矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップ**する。

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告

## <テーマ>

### ④木づかいガイドライン

## <解決手法>

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている、木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した、木づかいが推進されるように「**木づかいガイドライン**」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「**矢作川流域ものさし・私の流域物語**」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって**全国の各流域においてその理念と製作方法を普及**する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった、全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある**矢作川流域圏懇談会の取り組みについて全国の流域関係者に向けて発信**する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブスギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる**市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施**する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって**身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革**していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、**地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供**していく。

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動スケジュール

令和2年度の活動としてWG4回、フィールドワーク3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第55回WG（32名）	7月3日（金） 13：30～17：10	（岡崎市） ・岡崎市額田センター「こもれびかん」（集会室）
第56回WG（20名）	8月28日（金） 13：30～17：00	（根羽村） ・根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
フィールドワーク①（12名）	8月29日（土） 9：30～12：00	（根羽村） ・山地酪農実験地 ・小柄私有林植栽地 ・万場瀬集落周辺森林 ・ハナモモ植栽地
第57回WG（19名）	10月23日（金） 13：30～17：00	（恵那市） ・恵那市上矢作振興事務所 講堂
フィールドワーク②（15名）	10月24日（土） 9：30～12：00	（恵那市） ・奥矢作 串原大野地区
第58回WG（18名）	12月4日（金） 13：30～17：00	（豊田市） ・豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
フィールドワーク③（16名）	12月5日（土） 10：00～12：00	（豊田市） ・とよしば～駅前通り～矢作川（白浜公園・豊田大橋）
第12回山部会 まとめの会（21名）	1月22日（金） 14：00～16：30	（オンライン開催） ・設立以来初の完全オンラインWG

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ①流域圏担い手づくり事例集 | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <「矢作川流域圏懇談会 10年誌」の作成>

- 矢作川流域圏懇談会は、令和2年度の8月に設立10周年を迎えた。これを機に、「矢作川流域圏懇談会10年誌」を作成し、その中で、これまでの事例集づくりの成果を振り返り、矢作川流域を支えてきた人びとの動きと今後の展望についてまとめた。

### <川部会・海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動>

- 豊田市で開催された「耕LifeSDG'sマルシェ」の中で「矢作川感謝祭」が実施された。岡森フォレストーズの演奏、矢作川カッパクイズのほか「山、川、里、海のトークセッション」にコーディネーターおよび登壇者として懇談会メンバーが参加し、川と流域に対する想い、みんなが生き生きと暮らせる持続可能な流域づくりについて語り合った。
- 「ゆく川 くる川 川談義」において、本懇談会の紹介と10年の実績を全国に向けて発信した。



矢作川感謝祭 山、川、里、海のトークセッション



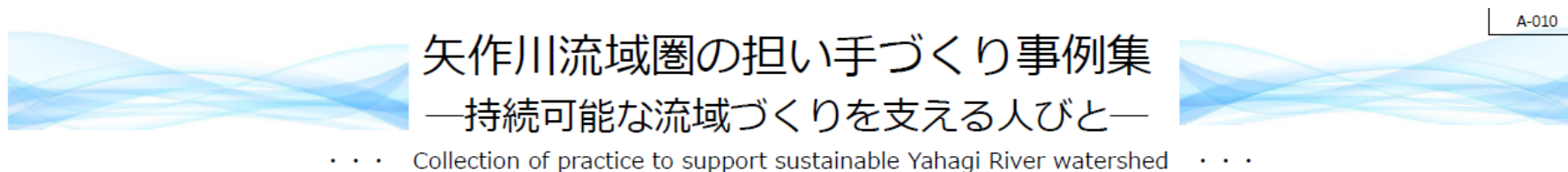
「ゆく川 くる川 川談義」における懇談会の発信

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ① 流域圏担い手づくり事例集 | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性についての検討>

- 10年誌の中で活動実績をカテゴリー別に再整理し、懇談会関係者以外の閲覧を考慮して分かりやすいものとした。
- グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン2020に参加し、本懇談会の紹介、流域圏担い手づくり事例集の活動成果について、ポスター発表を行った（下図は、ポスターを一部抜粋）。



洲崎燈子\*, 近藤朗, 高橋伸夫, 浜口美穂, 中田慎, 石原淳 (矢作川流域圏懇談会)

### 要旨

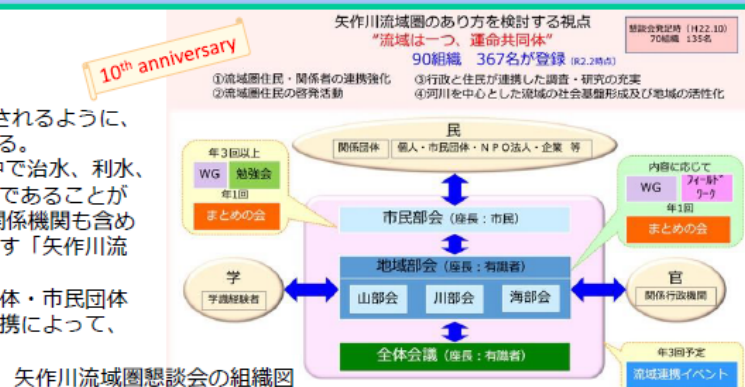
国土交通省豊橋河川事務所は2010年に、流域圏全体の発展をめざし「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げた。山・川・海の3つの地域部会のうち山部会は、中山間地振興や川や海的环境保全に関わる活動を行う団体に取材を行い、計6冊の「山村再生担い手づくり事例集」と「流域圏担い手づくり事例集」を発行した。取材対象となった団体の活動は多種多様で、大きな経済的利益は生まなくても、地域の自然資源を活かし、流域内でお金、人材、物がまわる流域内フェアトレードの形成を通じ、持続可能な流域づくりに貢献していると考えられた。

### 矢作川流域圏懇談会について

長野、岐阜、愛知の3県を流れる矢作川には、矢作川沿岸水質保全対策協議会の活動に代表されるように、“流域は一つ、運命共同体”という共通認識のもとでさまざまな課題に取り組んできた歴史がある。

2009（平成21）年7月に河川法に基づいて「矢作川水系河川整備計画」が策定され、その中で治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働による取組が必要であることが明記された。これを受けて国土交通省豊橋河川事務所は2010（平成22）年8月、流域住民・関係機関も含めた話し合いを通じて連携・協働の取組を行うことで、流域圏全体の発展につなげることをめざす「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げた。

同懇談会は市民部会、地域部会（山・川・海）で構成され、各部会で学識者・行政・関係団体・市民団体などのメンバーが連携して地域の課題を抽出し、その解決方法を探っている。また部会間の連携によって、持続可能な流域圏のあり方を模索している。



# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ②山村ミーティング | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの結果をふまえた「流域の森づくりガイドライン」の策定>

- 令和2年度は、他のテーマ、とりわけ「森づくりガイドライン」とのつながりを重視し、林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、現場の生の声を聞き、ガイドラインづくりに参画できる体制を模索している。

### <林業技術者と流域圏懇談会との連携強化>

- WGでは、岡崎市、根羽村、恵那市、豊田市を訪れ、各地域の林業に携わる方からお話をいただき、懇談会との連携や今後の展開などについて、意見交換を行った。
- 森づくりガイドラインと協働で、「研究者、市民ボランティア、山林現場技能者によるガイドラインづくり」と「森づくりの健康診断」を進めていく計画を立て、地球環境基金の助成金に応募した。



林業関係者による現地説明（恵那市）



林業関係者による現地説明（根羽村）

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ②山村ミーティング | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <流域で開催されるイベントへの参加>

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」などが中止となった。しかし、その代替わりとして、豊田市で開催された「耕LifeSDG'sマルシェ」の中で「矢作川感謝祭」が実施された。岡森フォレスターズの演奏、矢作川カップクイズのほか「山、川、里、海のトークセッション」にコーディネーターおよび登壇者として懇談会メンバーが参加し、川と流域に対する思い、みんなが生き生きと暮らせる持続可能な流域づくりについて語った。



矢作川感謝祭で演奏する岡森フォレスターズと山、川、海のトークセッションで意見を出し合う懇談会メンバー



# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ③ 森づくりガイドライン | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <「森づくりガイドライン」づくりをめざして>

- 「矢作川流域の森づくりガイドライン」の策定を進めていくため、ガイドライン策定作業への林業技術者の協力をお願いする文書案、ガイドライン策定会議の企画案について、検討を行った。
- 山村ミーティングと協働で、「研究者、市民ボランティア、山林現場技能者によるガイドラインづくり」と「森づくりの健康診断」を進めていく計画を立て、地球環境基金の助成金に応募した。

### <流域圏全体として調和のとれた森づくり>

- 岡崎市、恵那市において、森林環境譲与税の使い道に関する取り組みを、県や市の担当者より報告いただき、意見交換を行った。
- 岡崎市では、令和元～2年度に進行中の「岡崎市森林整備ビジョン」の見直しの進捗状況について説明を受け、意見交換を行った。
- 恵那市では、フィールドワークとして奥矢作森林塾を訪れ、森林資源管理、森林環境譲与税、地域循環利用などについて説明を聞き、今後の展開などについて、意見交換を行った。



森林整備ビジョンの見直しの進捗報告（岡崎市森林課）



森林環境譲与税の活用報告（恵那市林政課）

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ③ 森づくりガイドライン | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### < 矢作川流域における森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備 >

- 令和2年度開催されるバスツアーで、豊田市の水源涵養モニタリングサイトを見学する予定であるため、関係者で下見を行うとともに、説明事項に関する打合せを行った。



バスツアーで見学が予定される豊田市の水源涵養モニタリングサイトの下見

- 岡崎市が、乙川で実施している間伐の推進による緑のダム機能向上について、モデル林の選定や実験施設の設置を通して、モニタリング調査を継続的に実施することを、森林整備ビジョンに掲げる個別施策の1つに盛り込む方向で検討していることが情報共有された。

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ④木づかいガイドライン | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <「木づかいガイドライン」の作成>

- 木づかいの推進については、根羽村森林組合が中心となって「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を進めている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのイベントが中止になったが、3月には岐阜女子大学の学生による木材を使った家具製作実習を行った。また、愛知教育大学とも木育関係での取り組みを行った。

### <「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を製作、その理念と製作方法を普及>

- 10年誌の中で、私の流域物語の意義や方法を示した。特に、流域を魅力的にするのは、流域に住む人の気持ちの総熱量であり、地域の持っている自然の特性が、個人の熱量を生み出し、それら個人の熱量が結びつくことで、地域を魅力的に変えていく力に変わる。

### <「木づかいライブスギダラキャラバン(木育キャラバン)」、木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトの実施>

- 市民創造型の取り組みとして、名古屋市のほしざき保育園の伐採された園内のケヤキを利用したベンチ製作の事例を挙げた。保育園の改修のため伐採されたケヤキは、ずっと子どもたちの成長を見守り続けてきた。今度は、ベンチに生まれ変わって、子どもたちの毎日に寄り添うことになった。



岐阜女子大学 住居学専攻の事例



ほしざき保育園の伐採されたケヤキを活用した事例

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ④木づかいガイドライン | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <楽しい「木のある暮らし」を定着>

- 令和2年度取り組みを行った「子どものための今すぐはじめる森と木のある暮らし事業」について、報告を行った。



製材工場の素材で製作した長椅子

⇒本事業は、普段の生活の中で「森や木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムを造成することを目的とする事業である。今回のWGでは、実際にプログラムで使われているウッドデッキや端材で作った椅子などを見ながら、プログラム内容などについて話し合いを行った。

# 1. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和2年度の活動成果

## ④木づかいガイドライン | 令和2年度の活動方針に対する進捗状況

### <地域住民や子どもたちに対して、様々な原体験の場を提供>

- 南信州及び矢作川流域の小中学生を対象に、普段の生活の中で「森や木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムが計画・実施できる事業が紹介された。
- 実際のプログラムの中で使用されるウッドデッキや椅子などを参加者で確認した。

⇒小学生と中学生が一緒になってウッドデッキを製作した。小学生はデッキの仮組みを、中学生はデッキ材料をロープワークで山の上上げてデッキを製作・設置した。急峻な尾根の上でもロープワークによって素敵なウッドデッキのある空間ができた。このデッキの上で、お弁当を広げたり、森寝、森ヨガを行ったり、レールランの基地や、ボルダリングデッキとしても活用する。



根羽学園の小学生によるデッキの仮組み ウッドデッキ設置によるプレイスメイキング

## 4.(2) 山部会の令和3年度の活動目標（案）

### 来年度の活動目標（案）

来年度は、これまでの4つのテーマについて、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、共通する課題については、協働しながら解決策を議論する。

### テーマ別の活動目標（案）

#### ①流域圏担い手づくり事例集

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅲ」を刊行する。
- 特に山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- 川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

# 1. (2) 山部会の令和3年度の活動目標 (案)

## ②山村ミーティング

- ・ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する(担い手の創出)。
- ・矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、更に検討を行っていく。

## ③森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

## ②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「流域の森づくりガイドライン」づくりに取り組む。

# 1. (2) 山部会の令和3年度の活動目標 (案)

## ④木づかいガイドライン

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い出を込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い出を尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。

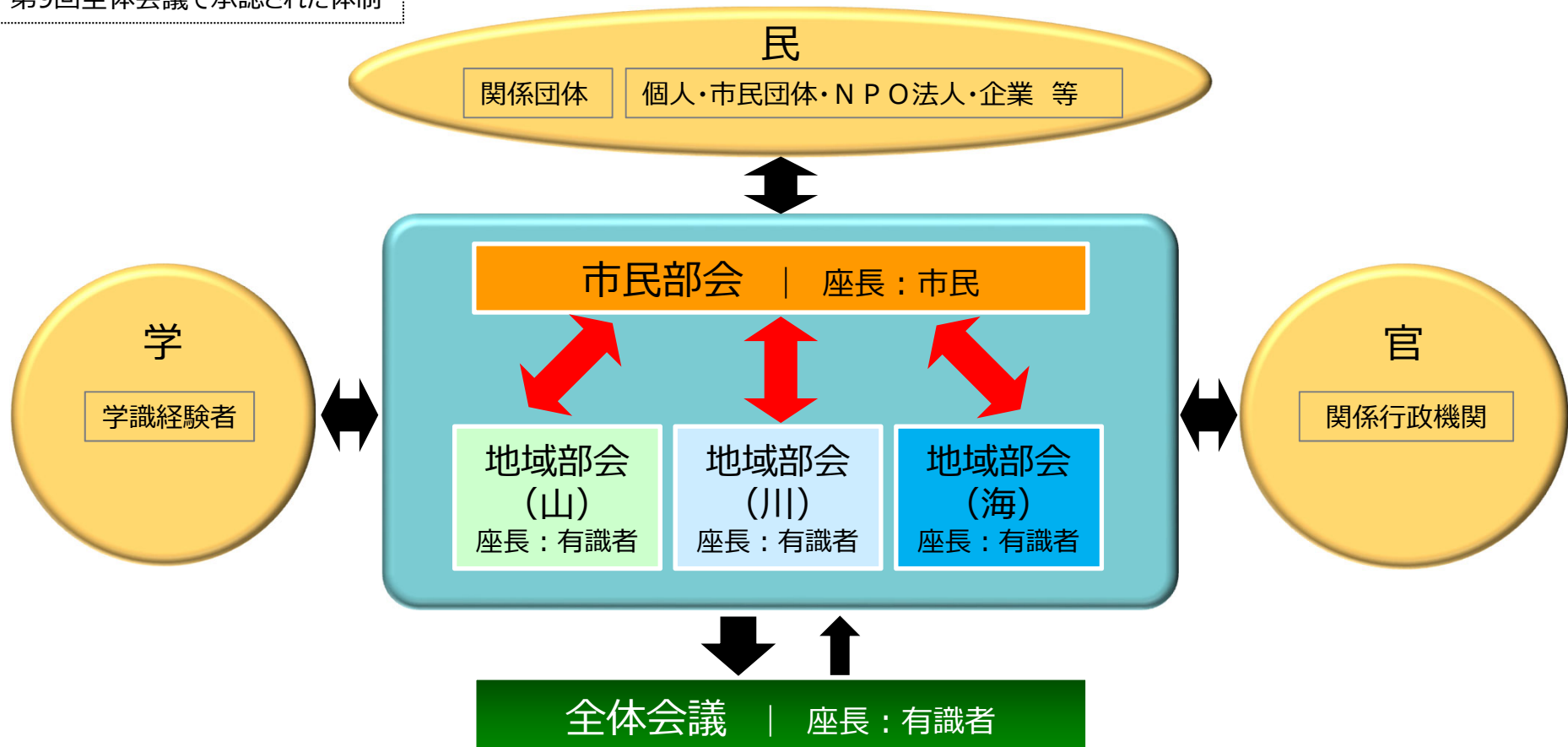


## 2. (1) 今後の体制等について

### ■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。

第9回全体会議で承認された体制



## 2. (1) 今後の体制等について

### ■ スケジュール案

- 市民部会は、WG2回、まとめの会1回を実施するとともに、勉強会(●)を2回、バスツアー(●)を1回行う。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、各4回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を12月頃に実施する。
- 全体会議を2月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントを2回実施する。  
①矢作川感謝祭 (夏) ②三河湾大感謝祭 (秋)

体制・イベント			月														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2				
市民部会	WG	勉強会		←	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		まとめの会											●				
地域部会	WG	フィールドワーク		←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		まとめの会											●				
全体会議		話し合いの会															★
流域連携に関するイベント								①		②							